

■ 報告 ■

弊社は土佐町に拠点があり、制作や編集の仕事をさせていただいており、その事業のひとつとして、障害のある方とものづくりを行っています。シルクスクリーンという印刷方法でTシャツやポロシャツを販売したり、鹿の角でガチャガチャを作ったり、それを障害のある方のお仕事にして地域の中で少しでもお金を作っていく、働いた方に正当な賃金を払おうという考えでやっているのですが、その中のひとつにカレンダー作りがあります。それが今日ご紹介するものに当たるのですが、今回で6年目の取り組みです。障害のある方に曜日や数字を描いてもらい、ひとつひとつが全部オリジナルの数字、曜日を作るという考えで2020年から続けておりまして、一緒にお仕事をしたり、カレンダー作りをする中で障害のある方が外に行く機会がないという話を聞いたり、文化に触れたり人と出会う機会がないという悩みを聞いて、カレンダー作りをもっと開けた場にするには出来ないだろうか、今回初めて県内の文化施設にご参加いただき、障害のある方と文化施設とのコラボで一冊を作ることにになりました。

こうちミュージアムネットワークの総会でこういった取り組みをしたいとお話をして、ご一緒していただける施設はないでしょうかと募集したところ12施設が集まり、県立美術館、高知城歴史博物館、絵金蔵などいろんな施設が参加してくださって完成したカレンダーでした。

具体的にどのように作っていったかをご説明します。まず、例として3月のページは大豊町の障害者施設ファーストが高知城歴史博物館に行き、10時から博物館の学芸員さんや職員さんに解説していただきながら館内を見学して鑑賞をしました。本当に皆さん学芸員さんのお話に耳を傾けて興味深く聞いていて、障害者施設の職員さんもびっくりしていらっしやいました。午前中は見学をして午後はお部屋をお借りして、資料を見ながら数字などを作っていました。この時、とてもありがたかったのが城博の学芸員さんたちが館内の資料を写真で用意してくださって、それをモチーフにたくさん作ることができました。

この工程を県内12カ所で作って一冊になっているのですが、やってみて障害のある方と出会う場がなかったからとてもよかったという声を文化施設からいただきまして、障害者施設からは文化と出会う機会になったということで、出会いの場というのが大事なのではないかと改めて思いました。5名、10名、とよく人数で括られてしまうのですが、本当は一人一人がお名前を持って、人格を持った個人だということを改めて感じたので、お互いに認識できる機会にできたのならよかったと思います。助成金で県立美術館の県民ギャラリーで原画展をやらせていただきました。いろいろな人が来る場所でできたことを感謝しています。

■視察委員の意見・質問■

興味深くというよりは意義深く拝見させていただきました。今回のポイントは12の文化施設とコラボをされたということで、障害者の方の単なるもの作りではなく、外へ一歩踏み出して外の世界との交流がなされた。しかもそれによって、それぞれの作品を観ますと、話を聞いたり見たことに対する自分の想い・感覚・感情を、個性を出して数字の絵に表していることに意義深さを感じました。なぜ、意義深く感じたかという、今年は第41回国民文化祭が高知で開催されるということは皆さんよくご存じなのですが、それと

は別に第 26 回全国障害者芸術文化祭がもうひとつの柱としてあります。皆さん、こちらにも目が向いているのかと頭の中に常にありましたので、そういうところに意義深さを感じました。

20 年以上前に高知市のあったかふれあいセンターの事業に関わっていて、その時一番重点になったのが障害者と健常者が地域共生社会をどう作りあげなのかということで、当時の厚生労働省が随分考えていました。是非、これから考える時はそのようなことも頭のベースに置いたうえで、今年やった + α の広がりをもって考えていただけたらと感じました。(上本竹永委員)

■会場からの意見■

●感想なのですが、僕も障害児施設で働いていてデスクにカレンダーを毎年飾らせていただいています。障害児の方と触れ合う作業の中で絵を描くことが多く、手足が使えなくても頭に筆を固定して描くなど、皆いい絵を描くし、このカレンダーを観てもすごく味があるなと思うページもあります。発表されないまま絵が埋もれていって、短命な方も多いので亡くなって捨てるのも忍びないので倉庫で保管したり、家族が引き取って行って捨てたという話もよく聞くので、その絵を観てもらいたい。生きていた意味や、障害のある方の個性があるので、それを飾り、観られる場を作りたいと思い、今も絵金蔵と相談しています。もし機会があれば作品をお借り出来たらと思います。

—ありがとうございます。是非、喜んで。とてもお話に共感しました。カレンダーに載っているのは本当に一部で、ひと月は 1 から 31 までしかないので限られているのだけれど、本当はもっとたくさん作ってくれていて、それを全部見せたいと思ってやったのが原画展だったので、全部展示させてもらいました。ひとつひとつがかけがえのないものなので、とても共感しました。ありがとうございます。

●美術館の県民ギャラリーを使うことで、今まで土佐町でやっていた時とは別の層に来ていただけたら、届いたりしたのではないのでしょうか。カレンダーも会場で販売もされていて、すぐ完売されたのではなかったですか。

—原画展自体は想定していたよりも正直お客様がすごく少なかったということがありました。ただ、県立美術館のミュージアムショップで販売していただき、完売したので追加して欲しいとの連絡をいただきました。